

報道関係各位

件 名 有間エリア水源林保全プロジェクト（通称「クマタカと ヤマネの森プロジェクト」）の始動について

1 概要

奥山に残された手入れ不足のスギ・ヒノキ（針葉樹）の人工林は、森林の持つ公益的機能の低下や維持管理コストの増加が課題となっています。

本プロジェクトでは、名栗地区の奥山にある市有林において、針葉樹と広葉樹が混ざる「針広混交林化」に取り組むことで、水源涵養や災害防止機能の向上、様々な野生動物が生育・生息できる生物多様性の高い森林づくり（ネイチャーポジティブの推進）を進め、課題の解決を目指します。

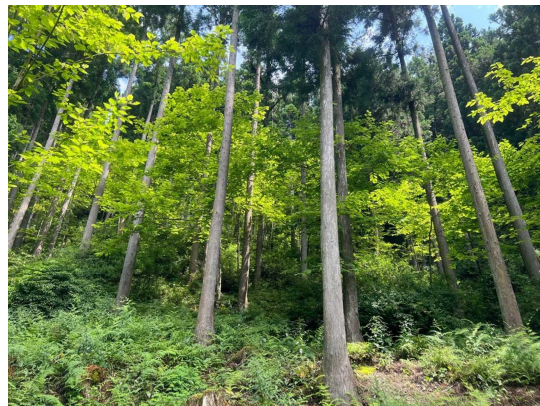
2 プロジェクトについて

本プロジェクトでは、名栗地区の有間ダム（通称「名栗湖」）の上流部に広がる市有林を対象に、針広混交林化を効果的に進めていくため、巻き枯らし間伐やシカ害対策等による下層植生の保護を、令和7(2025)年度から実証的にスタートしました。

令和8(2026)年度についても、企業からの寄附金（企業版ふるさと納税）や埼玉県補助金（水源地域保全等支援交付金）などを活用しながら、引き続き同様の取組を進めてまいります。



手入れ不足の様子



5年後(2030年頃)の目指す姿

3 プロジェクトが目指す森林づくり

本プロジェクトでは、針広混交林化に取り組むことにより、水資源貯留・水量調節などの「水源涵養」や洪水・土砂流出・林野火災などの「災害防止」の機能を高め、様々な野生動植物が生育・生息できる「生物多様性」の高い森林づくり（ネイチャーポジティブの推進）を目指します。

また、普及啓発のための「環境教育やイベント」、プロジェクト評価のための「モニタリング」、新たな状況や環境の変化に柔軟に対応するための「順応的管理」などにも取り組みます。



間伐作業の様子



シカ害対策の様子



モニタリングの様子

4 本プロジェクトのシンボル種

生物多様性の指標として、「豊かな森林生態系のシンボル種」とされ、対象地で確認されているクマタカ及びヤマネを、本プロジェクトのシンボル種に設定しました。

こうした希少な動物が暮らしやすい環境となるよう、間伐などの実施にあたっては、クマタカの営巣期や狩り場のほか、主なエサとなる鳥類や小動物などの生息・生育環境に配慮します。また、ヤマネが利用する種子や果実がなる植物を増やすほか、巣材として重要なコケ類などを保全するため、湿潤な環境をモザイク状に残すように配慮します。

■クマタカ（タカ科クマタカ属）

【レッドリスト】環境省・埼玉県 絶滅危惧 IB 類(EN)

【種の保存法】国内希少野生動植物種に指定

クマタカは森林性の大型猛禽類であり、対象地には少なくとも1つがいが繁殖しています。クマタカは食物ピラミッドの頂点に位置するため、「豊かな森林生態系のシンボル種」であり、クマタカが安定的に繁殖している森林は、生物

多様性が健全に保たれている環境にあるとされています。



(写真提供) 近藤 昇 様・近藤 京子 様

■ ヤマネ (ヤマネ科 ヤマネ属)

【レッドリスト】 埼玉県 準絶滅危惧 1 型 (NT1)

【文化財保護法】 国指定天然記念物

山の守り神とも呼ばれるヤマネは、日本で 1 属 1 種の固有種で、対象地でも確認されている、樹上性の小動物です。樹洞などにコケ類や樹皮で巣をつくるほか、食べ物である種子や花粉を運んだり、時には他の動物の食べ物となったりと「豊かな森林生態系のシンボル種」でもあります。



(写真提供) やまね酒造 若林 福成 様

担当者	飯能市森林づくり課	川村
連絡先	042-978-5061	